

登録コード	E4640900	開講年度	2026			
授業科目	中等音楽科指導法基礎				担当教員	齊藤 忠彦
英文授業名	Music Teaching Methods in Primary School				副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限	対象学生
講義室	教育N404		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	26Eカリ，25Eカリ，24Eカリ，23Eカリ，22Eカリ，21Eカリ，20Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				学校の音楽教育に携わる専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観を高めることができるようになる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				中学校・高等学校音楽科の理念，目標，内容，方法，評価などの基礎的な事項を確認し，音楽科学習指導案を作成したり模擬授業を行なったりする経験を通して，音楽科授業において必要となる実践的指導力を高めることができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	音楽教育の歴史や理念を学び，現行の学習指導要領に示されている内容の理解を深める。続いて，分野別に学習指導案の作成を試み，それをもとにした模擬授業を行なう。担当教員が中学校教育現場の実務経験を活かして講義を行う。					
(5)授業計画	第1回：ガイダンス，音楽教育とは 第2回：学校音楽教育の歴史 第3回：中学校，高等学校の教育課程と学習指導要領 第4回：音楽科の目標と指導内容の概要 第5回：指導内容（歌唱分野，器楽分野） 第6回：指導内容（創作分野，鑑賞領域） 第7回：音楽科の評価 第8回：音楽科の教材研究，情報機器（ICT）の活用 第9回：学習指導案の作成の方法 第10回：学習指導案の作成と模擬授業（歌唱分野） 第11回：学習指導案の作成と模擬授業（器楽分野） 第12回：学習指導案の作成と模擬授業（創作分野） 第13回：学習指導案の作成と模擬授業（鑑賞分野） 第14回：授業のまとめと筆記試験，授業アンケート実施					
(6)成績評価の方法	第2回から第9回の知識に関わる内容についての小テストが40％（ ），第10回から第13回における音楽科学習指導案作成に関わる評価が20％（ ），模擬授業実践場面での評価が20％（ ），本授業全体を通しての関心・意欲・態度を20％（ ）とし評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可。					
(7)成績評価の基準	（4）の か までの内容に関わる評価が極めて高くかつ が極めて高い評価であった場合は「卓越している」， から までの内容に関わる評価が高くかつ が高い評価であった場合は「かなり上にある」， から までの内容に関わる評価が一定水準以上でかつ の評価が標準的であった場合は「やや上にある」， から までの内容に関わる評価が水準にありかつ について標準的であった場合には「標準にある」と評価する。					
(8)事前事後学習の内容	第10回から第13回の模擬授業実践の場面では，事前の指導案の作成に多くの時間を要する。教材研究，指導法の検討，授業の流れ，評価などに関わる綿密な検討が必要となる。また，事後には，自らの授業実践を振り返り，工夫されていた点と改善点をまとめる時間が必要となる。 この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って，60時間以上の時間外学習が必要となる。					
(9)履修上の注意	・学習指導案の作成の場面では，本授業時間外に授業担当教員との複数回の打ち合わせが必要となる。最低でも3から4回の打ち合わせを行なうことを考えると，少なくとも授業実践の3週間前から検討をはじめることとなる。					
(10)質問，相談への対応及び連絡先	オフィスアワー：研究室在室時は常時対応可（N410） 研究室電話：026-238-4133 メールアドレス：saitota@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	中学校・高等学校学習指導要領（音楽）解説，文部科学省，教育芸術社，227円 新版 中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法，齊藤忠彦他，教育芸術社，2,500円					
【参考文献】	中学校学習指導要領解説（音楽）ほか					